

平成28年度 伊那市立富県小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)	総合評価		
自立共同の力を高める子ども ○よく考え、やりぬく子ども ○仲良くみんなと支え合う子ども ○いつも明るくじょうぶな子ども	「自立(自主性 責任感 実践力)」「共同(相手意識 協力)」「基本的資質(体力 意思力)」の柱を基本に、人間性豊かで心身共に健全な児童の育成を、具体的な教育活動(学級作りと教科指導)を通して取り組む。	○「学校生活は楽しいですか」の児童アンケート項目では、低学年58名中54名、高学年73名中69名の児童が「そう思う・だいたいそう思う」と回答している。また保護者アンケートの「子どもさんは明るく楽しい学校生活を送っていますか」は、94%が「そう思う・だいたいそう思う」であった。アンケートからは好結果が得られたが、今後もよりよい学級作りを構築していくために教師一人一人の指導力の一層の向上をめざしていきたい。また、児童で「あまり思わない」と回答した児童が6名いたことを見逃さないようにしたい。		
	今年度の重点目標	○学校評議員や地域の方の授業参観の感想に「先生方は子どもの力を引き出し、伸ばしてくれている様子がわかった」「どのクラスも自分の考えを述べている。地域の中でも仲がいいなあと感じる」「授業に臨む姿勢が集中している。先生と子どもの距離がなく一緒になって授業をつくっている。授業づくりのひとつの方向である」など、職員の教科指導や学級経営の良さを見てくださった。保護者アンケートでは「規律と温かみのある学級づくり」について93%がよいと答えている。学級作りや授業づくりとともに、地域の活動へ積極的に参加したり、学校開放参観日などで地域の方をお呼びしたり、しめ縄の作り方を全校で教えて頂いたり、また、各クラスで地域の方を講師に社会科、生活・総合的な学習を進めるなど、地域や地域の方々ともふれあい、地域を知る活動を今後も継続し、保護者地域からより信頼される学校運営に邁進したい。		
	○あいさつ	成果と課題	評価	改善策・向上策
	○きく	○児童アンケートからは94%の子どもたちが自分から挨拶ができると答えている。児童会が月目標に取り入れるなどしたため、挨拶の意識は高まっている。	A a	○職員アンケートで「子どもたちが自分から挨拶している」と評価している職員が昨年より増えている。児童会と連携しながら、更に働きかけをしていきたい。
	○よむ	○児童アンケートからは98%の子どもが友達の意見を聞いて理解しようとしていると答えている。聞き方、中身については学年に個に応じてめざす姿を位置づけ指導している。	A b	○話す人の方へ体を向けて、顔を見て話を聞くよう指導し、全員の聞く姿勢が揃うまで待つようにしている。今後も重点目標とし、更に相手が何を言おうとしているかを聞きとらせることを考えたい。
○からだづくり	○家庭での読書状況を見ると30%の子ができていないと答えている。学校での読書を家庭読書へつなげて「読む力」の向上を目指していきたい。	B b	○学年毎にお薦め本一覧を作り家庭読書の習慣化を図ってきた。「よむ」ことが学習へつなげていけるよう、さらに学習との関連を図ってきたい。	
		○全校一斉の「マラソン」に加え、「体づくり」の時間を一年を通し取り入れ、ボール投げや紙凧びを週2日行い、技能や持久力を高めることができた。	A a	○来年度も業間に週3日のマラソンや体づくり(ボール投げ)を継続して取り組むとともに、体育時にも多様な運動を取り入れていきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	○本校独自の特色や良さを生かした教育活動の展開	○地域の方から学んだり地域素材を生かしたりした教育活動の展開ができたか ○縦割りなかよし班での学校行事や児童会活動が展開できたか	○地域の方に講師となって頂き地域探検や伝兵衛井筒学習など定着している。また、生活科では地域へ出かけ、竹を材として多様な学習展開の中、課題解決の力がついた。児童会活動では日常の縦割り班活動を通し他者を思う心が育った。	A a	○年間を見通した教育課程の編成を行う中で「富県の特徴」の内容をよく検討し、学校教育目標「自立共生の力を高める子ども」に迫るよう、教職員が共通理解して学校作りを目指していく。
		○食育に関わる農業体験・作物栽培	○児童が「食」の大切さを知り、意欲的に農作業に取り組み、収穫の喜びを得ることができ、給食の食材としても利用できたか。	○学級毎、畑作りに始まり種まき、苗移植等協力して行うことができた。夏休みも家庭の協力を得て畑管理ができた。子どもたちの思いから地域の方の指導を得て麦作りや蕎麦づくりができた。日常の給食食材として収穫された作物の利用ができた。	A a	○低学年、中学年、高学年別に向けての農作物栽培に関わる計画を更に見直し、子どもの願いの上立った農業体験学習ができるよう学校全体で推進していきたい。「おにぎり給食の日」を位置づけ、収穫した野菜を大いに食材利用していきたい。
	学習指導	○児童一人ひとりに確かな学力をつけ基礎基本の定着	○児童一人ひとりの実態を把握して、学力の基礎基本を定着することができたか	○水曜日放課後に富小タイムを位置づけ個別指導に力を入れている。専科教員や管理職も各学級に入り個別指導を進めてきた。新たに2名の学習支援ボランティアが入っていただいた。	B b	○児童一人一人のつまずきを把握した上での授業展開にすると同時に、客観的な学力検査結果を日常の授業や補習の時間に生かしていく。富小タイムではさらにボランティアの方を増員していきたい。来年度も全国学力調査の結果やPDC A事業の結果およびNRTの結果分析を行い、その生かし方について学び合う場を持つ。また、家庭と連携し家庭学習の充実を図る。
		○児童中心の分かる授業を目指す授業改善	○3観点を意識し、一時間の授業のねらいをはっきりさせた「分かる授業」の授業改善に努めたか。特に、きく力の育成に向けて、言語活動を取り入れ、伝え合う力を高めることができたか。 ○生活科、総合的な学習の時間において、研究テーマを「自ら学び、支え合う子どもの育成」とし、子どもの実情から研究を深めることができたか。	○言語活動を取り入れた授業改善を行ってきた。その中で「話す力」を高めることが大事であるという課題が見えてきた。 ○生活科、総合的な学習の時間では、子どもの興味・関心が継続するような教材との出会いにより、友だちと関わり、自分の思いや考えを広げながら進んで学習に取り組む児童の姿が多く見られた。生活科は教育課程研究協議会の授業校として、子どもの学びの姿のよさが郡内外の先生方から評価された。	B b	○さらに「ねらい、めりはり、みとどけ」を意識した授業改善を進めるとともに、伝え合う力の向上をめざし、「きく力」「話す力」の育成を課題として追究していきたい。職員同士が互いに学び合う「一人一公開授業」を継続していきたい。 ○生活科、総合的な学習の時間の研究を継続し、特に生活科において自分たちの生活を豊かにするための活動や「気づきの質の高まり」について具現化していきたい。
	生徒指導	○児童理解に基づいた児童個々への適切で迅速な指導	○教職員間で常に情報交換をし合って児童理解に努め、家庭と連携しながら迅速な指導ができたか	○保護者アンケート「担任や学校職員は子どものことで問題が生じたとき適切に関わり改善に努めていますか」の項目で、「そう思う、だいたいそう思う」が87%と高い評価を得ることができたが、昨年度比-5ポイントとなった。職員会議や校内支援委員会で児童理解の時間を設けて情報交換し、個に応じて保護者を交えたケース会議を重ねて学校全体で改善に努めてきているが、さらに家庭と連携しながら個々に応じた指導を行ってきたい。	B a	○一人一人の児童の実態からどう関わるかを校内支援委員会で短期・長期的指導方針をたてながら検討し、実践していく。また必要に応じてケース会議を開き、保護者とも十分に連絡をとりながら、チーム、あるいは全校体制で問題解決に当たっていく。2回のQ-U検査を実施し、その結果を全職員で共通理解し、学級経営・生徒指導・学習指導に生かしていく。
		○日常的に人権感覚を高める指導の実践及びいじめ防止の取組	○人権同和教育や道徳教育を始め、日常的に人権感覚を高める指導ができたか。また、いじめの早期発見、対応、再発防止に取り組んだか	○11月のなかよし旬間をはじめ児童会活動のなかよし集会等を通して、日常的に人権感覚を高める活動ができた。前期・後期と子ども対象にいじめアンケートをとり、必要に応じて個人相談などを行った。長期的、継続的ないじめはなかった。	B b	○恒常的な縦割りの「なかよし班活動」を中心に日常的に人権感覚育成に努める。いじめ防止については職員間で共通理解した上で、全職員で指導にあたるよう情報を共有していく。
学校運営	安全	○施設管理と安全の確保	○施設・設備の点検管理が日常的にできたか ○児童の登下校の安全について取り組んだか	○毎月のはじめに安全点検日を受け、施設設備の点検ができた。 ○低学年は地区ごとの集団下校を実施している。子どもたちが安心して安全に下校できるよう職員のパトロールや地域の方々による見守り活動を行っている。	A a	○月1回の安全点検だけにたよらず、日常的にきめ細かい安全対策を心がける。 ○道路拡張・歩道整備等に伴った通学路の見直しや整備要望を保護者や地域と連携しながら行っていく。また、児童の下校時の交通ルールを守るように、学級指導や交通安全指導に力をいれ、徹底をはかる。
		○情報の発信	○学級だよりや学校だより等で学校の様子を積極的に知らせたか	○保護者アンケートの「学校はおたより・連絡帳等で子どもたちの様子を知らせているか」の項目は92%が「そう思う、だいたいそう思う」である。地域開放参観日では授業公開とともにアンケートを実施し、結果をまとめ職員会議や「よりよい教育環境推進協議会」で公表し、連携を深めることができた。	A a	○本年度同様、学校だより・えがおみまもり隊通信は保護者と地域に全戸配布する。本校の児童の様子を中心に発信し、地域保護者とさらに連携を深めていきたい。学級だよりについても、積極的に発信できるようにするとともに、地域の方々に指導・支援していただける場を広め、学校への理解、協力をさらに進めていく。
	○学校と地域、保護者との協力体制の構築	○保護者や地域の方と協同した活動ができたか	○「信州あいさつ運動」を取り入れ、毎月一回「挨拶の日」を設け、PTA、職員、子どもが朝校門に立ち、挨拶を行ってきた。 ○読み聞かせボランティアやクラブ活動及びふるさと学習のしめ縄作り等で地域の方を外部講師として迎え、活動を進めることができた。 ○昨年、PTA主体となって全校の子どもを対象に企画したキャリア教育は今年度、文部科学大臣表彰を受けた。今年も高学年対象にPTA主催のキャリア教育を実施する。	A a	○児童が地区行事等に積極的に参加している現状を継続していく。保護者や地域の方がいつでも参観していただけるよう、参観の機会をとったり呼びかけたりしていく。 ○「あいさつの日」を年間暦に位置づけ、PTAを含む学校や地域全体であいさつ励行に取り組んでいきたい。 ○学校支援ボランティアの整理と募集活動を始め、信州型コミュニティースクールとして機能できるよう組織作りを見直していきたい。	
研修	○教育実践に役立つ研修の計画的な実施	○校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施できたか	○年間計画に職員研修を入れ、障害者差別解消法の合理的配慮、地域の歴史、しめ縄づくりなどの研修を行い、知識、技能を得ることができた。	B b	○授業指導や子ども指導に役立つような研修、研修を実施していく。本年度研修した内容をさらに深く実践力を高められるよう、計画的に進めていく。	
	○同僚性に基づいた研究・修養の実施	○職員間の意思疎通が図られ、信頼関係に基づいた教育活動ができたか	○職員会議、教務会、合同学年会等を通して、職員間の連携を常に図った。緊急の対応については職員連絡会を以て即時対応し、組織的に取り組めた。	B a	○生徒指導委員会、校内支援委員会(小委員会)を中心に組織的対応を図り、いじめ不登校についてはチームでの支援を軸に今後とも全校体制で対応を図っていく。	